



「初日の出」

患者さんの権利

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 繼続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質 (QOL) や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

CONTENTS

- | | |
|------------------------------------|--|
| ② 年頭のあいさつ | ⑧ 当院の医師臨床研修プログラムと新研修医宿舎
“うれしの葉隠館”、そして佐賀県の臨床研修 |
| ③ 脳死下臓器提供シミュレーション | ⑯ 佐賀県糖尿病コーディネート看護師事業参画について |
| ⑤ 市民公開講座を開催して | ⑰ 毎年恒例！ 糖尿病食事会♪ |
| ⑥ 財団法人ウイルス肝炎研究財団主催
嬉野市民公開講座を終えて | ⑫ 外来診療担当医表／編集後記 |



年頭のあいさつ

～未来への「夢」を乗せて～

院長 古賀 満明

新年あけましておめでとうございます。年末年始の期間中、救急対応にあたった職員の皆さん、ご苦労様でした。

昨年は、国立病院機構で毎年実施されている病院評価で88ポイントを取り、一昨年に引き続きAA評価を受け、全国12位にランクされました。しかも診療面(研究・教育を含む)44ポイント、経営面44ポイントと両面のバランスが取れた評価となりました。平成16年の国立病院機構発足時、B評価で全国99位だった時とは隔世の感があります。全職員が志を一つにして努力を積み重ねた結果と、誇らしく思います。

佐賀県内でも、この9年間で急性期型地域中核病院として成長を遂げてきました。昨年は、地域医療再生基金による研修医確保のための宿舎整備と、がん対策としての治療機器整備の2つの補助事業を得ることができました。宿舎整備事業では、県内では初めての臨床研修医宿舎「うれしの葉隠館」が完成し、来年度の研修医マッチング数をこれまで最高の3名と伸ばすことができ、佐賀大学を基幹とし当院を1年間研修する研修医2名も決定しました。がん対策事業では、今年5月の稼働を目指し、がん治療機器の更新工事が始まっています。更に本事業の波及効果として、放射線治療専門医(常勤)の確保が決定しました。2つの事業は、地域医療の再生と強化に向け、確実に身を結んでいます。これからも佐賀県の医療の向上に、当院としても積極的に寄与していきたいと思います。

今年は、未来への「夢」を繋ぐ事業がスタートします。それは新病院建設へ向けての準備です。一昨年、嬉野市から新幹線駅建設予定地への病院移転の要請があり、検討を重ねてきました。



昨年末、国立病院機構本部の理事長、副理事長が相次いで予定地を視察され、準備作業の許可が出されました。新年早々にも、建設準備室と建設委員会等を立ち上げ、基本計画の策定に取り掛かります。当院は、もともと嬉野町を上げて誘致された海軍病院を前身としています。今回、市町村合併で出来た嬉野市より要請を受け、病院の新築移転を行うことは感慨深いものがあります。鉄道が通っていない嬉野に新幹線が開通し、新幹線駅の近接地に新病院を建設できるのですから尚更です。佐賀県南西部の医療の充実のみならず、地域の活性化に繋がるような新病院建設にしたいと考えています。

これまでの病院の成長は、職員の努力だけでなく、地域の医療機関、行政機関、そして患者さん達から支えられ達成したものと考えています。これまで支援いただいた地域の人々に、安心して暮らせる医療体制を提供することが、当院の使命と考えます。24時間、365日の小児入院体制を備えた病院として「安心な子育て」を、救急患者の最後の砦である救命救急センターとして「安心な生活」を、今や死因の半数を占めるがん診療の充実を図るがん診療連携拠点病院として「安心な老後」をおくれる地域づくりに貢献していきたいと思っています。

歴史と伝統に培われたこの地より、未来への「夢」を繋ぐ地へ、着実なレールを引くことを誓い、新たな時代への門出とします。



脳死下臓器提供シミュレーション

副院长 河部 康次郎

平成21年7月「臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律(改正臓器移植法)」が成立し、翌年7月に施行された。これに従って、当院は以下にあげる
「脳死下臓器提供の施設条件」

1. 臓器摘出の場を提供する等のために必要な体制が確保されており、当該施設全体について、脳死した者の身体からの臓器摘出を行うことに関して合意が得られていること。なお、その際、施設内の倫理委員会等の委員会で臓器提供に関して合意が得られていること。
2. 適正な脳死判定を行う体制にあること。
3. 救急医療等の関連分野において、高度の医療を行う次のいずれかの施設であること。
 - ・大学附属病院
 - ・日本救急医学会の指導医指定施設
 - ・日本脳神経外科学会の専門医訓練施設(A項)
 - ・救命救急センターとして認定された施設
 - ・日本小児科総合医療施設協議会の会員施設

のそれぞれの項目を満たし得る施設となった。平成23年11月に開設された救命救急センターは順調にその役割を果たし、ドクターへリはおよそ週1回の頻度で当院への患者搬送が行われている。そのよう



な中、平成23年11月28日、長崎医療センターの高山救命救急センター長にご講演頂き、翌24年2月25日に佐賀県臓器バンクならびに日本臓器移植ネットワークが中心になって、当院で佐賀県脳死下臓器提供セミナーが行われた。私も含め当院スタッフはこれらの講演会やセミナーに参加し、脳死下臓器提供の実際について少しづつ理解を深めていった。平成24年4月16日、脳死下臓器提供準備委員会をスタートさせた。まずは、当院における脳死下臓器提供マニュアルの作成を行い、脳死判定委員会の設置、更に脳死判定医を倫理委員会にて選定した。脳死判定医の資格としては、「脳神経外科医、神経内科医、救急医、麻酔・蘇生科・集中治療医又は小児科医であって、それぞれの学会専門医または学会認定医の資格をもち、————。」とガイドラインに記載があり、当院では脳神経外科専門医2名、神経内科専門医1名、麻酔科専門医2名、救急専門医1名、小児科専門医1名を選定した。以後、月に1回のペースで行われた脳死下臓器提供準備委員会では、院内移植コーディネーターの選定、嬉野医療センター脳死下臓器臓器提供フローチャートを作成し、机上シミュレーションを行い、今回の脳死下臓器提供シミュレーションへの準備を進めた。今回の脳死下臓器提供シミュレーションは、脳死とされうる患者の発生から主治医、院内コーディネーターの動き、臓器提供対策室の立ち上げや脳死判定委員会の開催、判定医の選出、更に日本臓器移植ネットワークからの移植コーディネーターも含めた全体の動きと患者家族の反応、手術室等の準備対応、実際の脳死判定医も交えた脳死判定手順等の確認などを芝居形式で行った。時間配分等がよくわからず、あまり長くならないようにとばかり考えていた分、逆に意外とあっさりと終了した感じだった。脳死下臓器提供は、佐賀県全体でも未だ一例も行われていないという現状から、私も含めて当院職員全体がその現実味を実感として感じられない、というのが本音だろうと思われる。そんな中、当日のシミュレーションに向けて本準備委員会のスタッフがスライドの準備や名札の準備、机やストレッチャー、蘇生人形の準備や脳波計を含めた各種機器や器具を揃えてくれた。当日は、日本臓器移植ネットワークから3人のコーディネーターにも参加頂き、無事に終了することが出来たことを有難く思っている。今回のシミュレーションでは実際の脳死下臓器提供への対応として万全とは言えない。しかしながら、もし、患者あるいはその家族の脳死下臓器提供を行いたいという意思表示があれば、今回のシミュレーションでの動きを元に、また、当院脳死下臓器提供マニュアルに沿って、患者やその家族の希望に対応することが可能な程度に準備はできたと思っている。

いつ何時にドナーの発生をみるのか全く推測ができない脳死下臓器提供、今回のシミュレーションが決してゴールではなく、始まりであることを職員の皆さんに重々ご理解いただき、いつ発生するか分からぬ究極の命を懸けた命の絆をつなぎたいとの要望に確実に対応できるよう皆さんのが心からのご協力を希望したい。



市民公開講座を開催して

統括診療部長 岡 忠之

昨年に引き続き、嬉野市と嬉野医療センターの主催で、「うれしので元気をあなたにー見つめよう！自分のこころと身体ー」をテーマにして、市民公開講座を平成24年11月10日に嬉野市文化センターで開催しました。参加者は111人でした。今回は“がん”を主題とした内容で、第1部は「ここまで進化したがん治療・体にやさしいがん治療」と題して、4人の演者が講演しました。

まず司会者の方から日本で増え続けるがん患者の実情、発がんのメカニズム、早期発見・治療の大切さを話しました。古川外科医長は、「乳がんの最近の治療」と題して、自己検診の方法、乳がん治療における手術療法、放射線療法、薬物療法の意義について解説しました。また乳がん手術の変遷として、以前の胸筋合併切除とリンパ節の徹底的廓清から、現在は適応があれば乳房温存手術、さらにセンチネルリンパ節生検を行うことによって、腋窩リンパ節廓清の省略といった、乳がんに対する低侵襲手術の歴史的流れを紹介しました。RIと色素法を併用して、センチネルリンパ節を同定するデモンストレーションには、参加者は驚いておられるようでした。次に荒木外科医長は、「胃がん、大腸がんの最近の治療」と題して講演しました。①胃がん・大腸がんの患者さんって多いの？、②胃・大腸はどこにあるの？どこに胃がん・大腸がんができるの？、③どのくらい進行しているの？、④どのくらい胃や大腸を切るの？、そんなに切って大丈夫？、⑤お腹はどのくらい切るの？、⑥食事はいつから？何日で帰れるの？といった質問に答える形式でわかりやすく解説し、低侵襲手術としての腹腔鏡補助下の手術を紹介しました。細田消化器内科部長は、「早期の胃がんは内視鏡で切除！」と題しての講演でした。その上で、ヘリコバクターピロリーの除菌が胃がん発生の予防につながること、そして早期の胃がんであれば外科的手術ではなく、内視鏡を用いてがんの病巣を取り除くことができるなどをビデオで供覧しました。ヘリコバクターピロリーと胃がん発生との関連には、参加者から質問が出るほどインパクトがあったようです。嬉野市役所から嬉野市のがん検診実施状況についての報告があり、がんの早期発見にはがん検診の受診が重要であることが強調されていました。



会場の入り口には①がんの予防対策、②嬉野医療センターにおけるがん診療の実績、③緩和ケアチームの活動、④がん化学療法におけるチーム医療、⑤がん地域連携バスのポスター展示があり、多くの参加の方々が興味深く見られていました。

第2部は特別講演として、「世界がもし100人の村だったら」の著者である池田香代子さんが、「生きるということ、100人村からのメッセージ」と題して命の大切さ、生きることの喜びについて講演されました。

会場には当センターに通院されている患者さんも何人かおられ、講演後には直接質問を受け、健康、特にがんに関する関心の高さを改めて実感しました。

最後にこの会の企画、運営にご協力いただいた関係者の方々に、心から感謝いたします。



財団法人ウイルス肝炎研究財団主催 嬉野市民公開講座を終えて

消化器肝臓内科医長 有尾 啓介



平成24年9月29日、ウイルス性肝炎の啓蒙を目的とする市民公開講座を嬉野市公会堂で開催しました。佐賀県はB型肝炎、C型肝炎の罹患率が特に高い地域であり、それに伴って肝がん死亡率ワースト1という結果が10年以上続いています。適切な肝炎治療で肝硬変や肝癌への進展予防が可能ですが、自覚症状が無いために感染に気づいていない、もしくは感染を知っていても医療機関の受診に至らないという問題があり、当院古賀院長を委員長とする杵藤地区肝がん撲滅対策委員会（医師会、各地域の医療機関、保健福祉事務所、市町村など）は長年地道な対策を打ち立てて、検診受診率／二次精査率／IFNなど抗ウイルス療法導入率の向上など一定の成果を収めました。

今回ウイルス肝炎研究財団より古賀院長に市民公開講座の開催依頼があり、杵藤地区肝がん撲滅対策委員会共催という形で開催することになりました。ウイルス性肝炎の治療がなぜ必要か、治療を受けなければどうなるのか、症状が無くても管理がなぜ必要か、定期的管理を受けなければどうなるのか、第一部の座長を古賀院長、講演を長崎医療センター肝炎治療研究室長の長岡進矢先生に、第二部の座長を池上内科副院長の池上素樹先生にお願いして、講演を私と杵藤地区保健福祉事務所の橋本泰代保健師で行いました。また当院の超音波技師や医師、看護師の協力のもと、講演後の無料体験コーナーとして腹部超音波検査、フィプロスキャン（肝の硬度を測定する機器）を実際に参加の方に受けて頂く企画も実施しました。特に肝生検に代わって肝硬変の診断を簡便に行う

フィプロスキャンは希望者が多く、関心の高さがうかがえました。

各市町村や保健福祉事務所、医師会の先生方のご協力もあって、台風が接近するあいにくの天候の中だったのですが、150人の方に来場していただきました。

また嬉野ケーブルテレビでも繰り返し放送して頂いたおかげで、その後の反響の大きさに驚いています。

今回感じたことですが、日本一肝炎／肝がんの多いこの地域で肝癌死亡者を減らすという目標は非常に大きく、困難を感じずにはいられないのですが、それで

も様々な異なる立場の方達が協力し一致団結して肝癌死を減らそうとされている熱意にとても感銘を受けました。開催数か月前から当日まで、医師会の先生方や市町村、保健福祉事務所のスタッフ、当院からは肝炎コーディネーターや看護部、管理課、超音波技師まで、古賀院長を中心に、製薬会社の後援を全く受けずに手作りの公開講座を作り上げたメンバーの中に入ることができただけでも財産のように感じます。主催者挨拶に来られたウイルス肝炎研究財団常務理事の堺隆弘先生も、公開講座スタッフのチームワークの良さを非常に褒められ、その雰囲気の良さに電車の発車時刻直前のぎりぎりまで打ち上げを楽しんで帰られました。

最後に、今回の公開講座に関して最も時間と熟考を要したのは、実はポスター作りかもしれません。嬉野を象徴する茶畠の中を、「肝がん撲滅へいざ出陣」と書かれた新幹線が走り、また新病院と新幹線の駅の建設予定図もちゃっかり入っています。初めて見た方は、まさか肝炎公開講座のポスターとはあよそ思わないでしょうし、公開講座のお知らせと分かっても、「この建物はどこやろか」と不思議に思われたかもしれません。なかなか一般的には興味を持ちづらい肝疾患ではありますが、市民の方々が日常の雑談の中で「あのポスターは何ね？」と話題にしてもらえるところから始まれば、という思いもありましたし、嬉野の未来予想図として肝癌が少しでも減った未来を描きたいという気持ちも詰まっています。打ち合わせのたびにデザインを変更してきましたので、ポスター業者さんには大変ご迷惑をおかけしたこと、今はいい思い出になりつつあります。肝炎の早期発見と治療をこれだけ大々的に呼びかけたからには、誰にお見せしても恥ずかしくない、質の高い診療をもって個々の肝疾患を完結させなければという責任をひしひしと感じていますし、その責任の重さに身が引き締まる思いもあります。市民公開講座の開催に携わって下さった皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





当院の医師臨床研修プログラムと新研修医宿舎 “うれしの葉隠館”、そして佐賀県の臨床研修

教育研修部長／臨床研修委員会委員長 内藤 慎二

平成16年にスタートした新医師臨床研修制度は、“医師としての人格の涵養とプライマリ・ケアのできる基本的な診療能力の修得”という基本理念を基に、途中いくつかの内容の見直しを受けながら今年で9年目を迎えました。この医師臨床研修を行うにあたっては、各研修機関において、それぞれの施設の研修プログラムが必要となるのですが、当院にも現在3つの研修プログラムが存在します。そして、その中の教育理念には、私達プログラム責任者が特に大切にした骨子（思い）が含まれています。それは、この研修の2年間が医師としての基盤作りの極めて重要な時期となることから、この研修期間を単に制度上のノルマの2年間として捉えるのではなく、医師として必須の総合的能力を身につけることのできる2年間にしよう、そしてそれを実現できるプログラムにしようという思いです。そのため、制度の理念に謳われたプライマリ・ケアのできる基本的な診療能力の修得は勿論のこと、これに“医師として不可欠な研究心の育成”を加え、この2年間の研修の中に学会発表と論文作成を義務付けました。すなわち、医師としての人格+様々な疾病に適切に対応できる診療能力+医学知識と研究心をもった医師（研修医）の育成を目指しました。その結果、当院の研修修了者は全員が、国際学会や全国学会を含む幾つかの学会発表を経験し、少なくとも1編以上の論文を作成しています。そして今年、そのひとつの区切りとして、これまでのかれらの論文を集めた“嬉野医療センター研修医論文集”を作成いたしました。今後、彼らが当院におけるこれらの経験をいかして日本の医療を支える実力ある医師に成長してくれることを心から願っています。

さて、今も全国で医師不足（正確には医師の分布不均衡）が深刻化する中で、各県、各施設が研修医獲得に努力しており佐賀県もその例外ではありません。なぜ、一部の地域や医療機関に研修医が偏るのでしょう？ それは恐らく、そこに“研修医を引きつける魅力ある研修プログラムとその実践、そして指導医の情熱”があるからだと思います。佐賀県は、このような魅力ある研修プログラムとして、昨年より県内5つの全ての基幹型研修病院をローテートできる研修プログラム“オール佐賀プログラム葉隠”を提案し立ち上げました。このプログラムは行政を含め佐賀県全体が一丸となって

<p><i>Program for Postgraduate Clinical Training in National Hospital Organization, Ureshino Medical Center</i></p> <p>Evaluation Notebook</p> <p>嬉野医療センター基幹型研修プログラム</p> <p>Name _____</p>	<p><i>Program for Postgraduate Clinical training National Hospital Organization, Ureshino Medical Center</i></p> <p>研修医総合評価表</p> <p>嬉野医療センター・肥前精神医療センター研修プログラム</p> <p>担当医氏名 _____ 担当医連絡先 _____</p>
---	---

研修医育成をパックアップするという全国に例を見ない画期的なプログラムです。そして今年のマッチングでは、早速その効果が現れ佐賀県の5つの基幹型研修病院のうち嬉野医療センター（当院）と唐津赤十字病院、佐賀大学の3施設でこのプログラムの定員枠が全て埋まりました。今後は、5つ全ての基幹型研修病院の定員枠も埋まっていくものと期待しています。

今年10月、当院にこのオール佐賀プログラム葉隠をさらに魅力的にする研修医宿舎“うれしの葉隠館”がオープンしました。佐賀県で最初となるこの研修医宿舎は、ほとんどの家具や電化製品を完備した研修医のみが利用できる施設で、この完成により県内の研修医は、体一つで、いつからでも当院での研修をスタートできるようになりました。今後は、他の基幹型研修病院にも同様の宿泊施設が整備され、研修医は、ますます容易に県内研修病院をローテートできるようになると思います。このプログラムを通して佐賀県内に研修医が集まり、佐賀県の臨床研修が更に充実していくことを願っています。

最後に、この医師臨床研修制度を単なる制度の二年間として終わらせるか、今後の地域医療、日本の医療を支える実力ある医師を育てる貴重な期間とするのか、それは、われわれ先輩医師（指導医）一人一人の考え方、思いにもかかっています。先輩医師のみなさん、一人一人医師としての誇りと信念をもって後輩医師を育てていこうではありませんか。



◀うれしの葉隠館入口





佐賀県糖尿病コーディネート 看護師事業参画について

糖尿病コーディネート看護師
小畠みづほ・森山照代・工藤完美

現在、佐賀県の糖尿病患者数は、2万4千人です。佐賀県は、新規透析導入の伸び率が全国2位・糖尿病専門医は21名・特定健診の結果でHbA1c 6.5%未満にコントロールされている患者数は全体の45%と厳しい状況にあります。この現状を踏まえ佐賀県の取り組みとして、糖尿病疫学データベースの構築と糖尿病及び合併症治療に関する連携事業が開始されました。その人材を育成しようと始まったのが糖尿病コーディネート看護師事業です。育成協力施設として、当院を含む佐賀県内の9医療機関が選ばれ、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ私達3名が佐賀大学で行われた全4回のコーディネート看護師育成研修を受講し、修了証書をいただきました。

研修後、糖尿病コーディネート看護師として週1回での活動を始めたところです。

当院が連携している医療圏において診療訪問等を通して、その地域の糖尿病治療を支援することを目的としています。私達の役割として、①佐賀県糖尿病連携手帳の推進 ②かかりつけ医療機関への糖尿病診療・療養支援に関する技術移転 ③地域住民への広報活動があります。

まず当院において、院内スタッフへ糖尿病連携手帳の意義・使用方法の説明会を行いました。その他、地域のコミュニティにおける勉強会に参加したり、かかりつけ医を訪問し事業説明を行い、同意を得ることを始めています。今後は週1回の活動日を利用して、計画的に訪問をしていきたいと考えています。地域の医療施設のニードに応じることができるように、コミュニケーションを図りながら活動していきたいと思います。

この活動を始めるまでには、院内外問わず多くの方々の御協力を頂きました。今後も糖尿病患者様の支援のために各方面にご相談させていただくことと思います。私達も試行錯誤の状況ではありますが、微力ながら、糖尿病患者様の療養環境をよりよいものに出来るように活動していきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



毎年恒例！ 糖尿病食事会♪

栄養管理室 深澤 恵理

11月12日、今年もこの日がやってきました。当院では毎年11月に糖尿病の生活指導を目的とし知識を深めていただくための食事会を開催しています。この食事会は糖尿病教室の一環として行っており、医師、薬剤師、看護師、検査技師、理学療法士、管理栄養士が構成員として動いています。内容は身体測定、血糖測定、個別相談、多職種による講演2～3題、運動療法の実演、そしてスタッフも患者さんと一緒に食事をするお弁当タイム。

このお弁当の献立は減塩を含めた糖尿病食を基本として、毎年管理栄養士が作成します。お弁当も講演も去年とは違うネタを…と思い、お弁当は「秋の彩り」、講演は合併症予防として「めざせ！1日塩分6g！」をテーマにして作り上げました。昨年は一定のカロリーでの食事提供だったので必要量の低い患者さんはご飯を残さなければなりませんでしたが、全員完食…。嬉しくもありましたが治療食としては不合格な食事となってしまいました。今年はその反省点を生かし、ご飯は自分で計量する方法をとり、患者さん自身が適量を再確認していただく機会にもなったかと思います。今年のメニューは銀杏ご飯・まぐろのソテー～オニオンソース～・チキンのチーズパン粉焼き・ごぼうのゴマサラダ・彩り焼き浸し・甘柿。1番人気はチキンのチーズパン粉焼き、女性陣には彩り焼き浸しが人気のようでした。講演では身近な食品の塩分あてクイズ、今があいしい季節のおでんの塩分量クイズなど患者さんばかりでなくスタッフも一緒になって参加し、意外と多く含まれている塩分に驚きの声が上がっていました。当日はお弁当のレシピと作り方の資料も配布し、日頃の食生活にあいしく簡単にできる減塩法を取り入れていただきたいと思っています。

しかし、この食事会には大きな課題があります。患者さん同士の交流や情報交換も目的として開催していますが、年々参加者が減少傾向です。もらってうれしいお土産付きなので、この記事を読んで下さったあなた！ぜひ、周りの方や患者さんにお説明の声かけをお願いします＼(^o^)／。



嬉野医療センター・外来診療担当医表

区分		月	火	水	木	金
呼吸器内科	午前	副島 佳文・澤井 豊光	中野 浩文	副島 佳文・行徳 宏	澤井 豊光	中野 浩文・行徳 宏
消化器内科	午前	北山 素 白石 良介(消化管) 磯田 広史(肝臓)	桐田 誠司(消化管) 有尾 啓介(肝臓) 角川 淑子(消化管)	三根洋一郎(消化管) 北山 素 角川 淑子(肝臓)	桐田 誠司(消化管) 白石 良介(消化管) 有尾 啓介(肝臓)	三根洋一郎(消化管) 磯田 広史(肝臓)
循環器内科	午前	荒木 実 山元 美美	室屋 隆浩 三輪 高士	山元 美美	室屋隆浩(ベースメーカー) 山元 美美(第1・3) 荒木 実(第2・4)	荒木 実
心臓血管外科	午前		力武 一久・池田 和幸			力武 一久・池田 和幸
糖尿病内科	午前		田中 史子	森 仁恵	田中 史子	河部廣次郎
リウマチ科	午前	河部廣次郎		荒武弘一朗	荒武弘一朗	田中 史子
神経内科	午前			満田 貴光		満田 貴光
腎臓内科	午前		力武 修一(整形で診察)		力武 修一(整形で診察)	
小児科	午前	小野 喬康	飯田 千晶	佐藤 忠司	西 奈津子	大串 栄彦
	午後	佐藤 忠司 (診察14時~16時)	乳児検診(完全予約制) (診察14時~16時)	循環器外来 第1・3水曜 (診察13時~16時) 森本 崇(第1水曜日) 田代 克徳(第3水曜日)	小児腎臓外来 第2木曜 内分泌外来 第3木曜 久野 建夫(第3木曜日) 小児アレルギー第4木曜 (診察14時~16時)	西 奈津子
	午後	小野 喬康	古川 克郎 (呼吸器外科・乳腺外科)	荒木政人(消化器外科)	柴崎 信一(消化器外科) 久永 真(一般外科)	橋本 泰匡(一般外科)
外科	午前	周 志之 (呼吸器外科・乳腺外科)	古川 克郎 (呼吸器外科・乳腺外科)	荒木政人(消化器外科)	柴崎 信一(消化器外科) 久永 真(一般外科)	橋本 泰匡(一般外科)
	午後	周志之・古川克郎(乳腺外科) (診察13時半~15時)				
整形外科	午前	川口 耕平・久芳 昭一 上野 雅也	小河 賢司・池田倫太郎 井上 拓馬	古市 格・川口 耕平 池田倫太郎	小河 賢司 久芳 昭一	古市 格・井上 拓馬 上野 雅也
脳神経外科	午前	前田 一史	宮園 正之		宮園 正之	
皮膚科	午前	大仁田亞紀(新患) 大久保佑美(再来)	大久保佑美(新患) 大仁田亞紀(再来)	大久保佑美(新患) 大久保佑美(再来)	大久保佑美(新患) 大仁田亞紀(再来)	大仁田亞紀(新患) 大久保佑美(再来)
泌尿器科	午前	谷口 啓輔(再来) 林田 靖(新患)	谷口 啓輔(新患) 林田 靖(再来) 計画結婚(第1.3.5水曜日)		谷口 啓輔(新患) 林田 靖(再来)	谷口 啓輔(再来) 林田 靖(新患)
	午後		予約外来		予約外来	
婦人科	午前	松脇 隆博	松脇 隆博			一瀬 傑介
産科	午前	梶村 恵	一瀬 傑介		松脇 隆博	梶村 恵
	午後	助産師外来(14時~16時) (完全予約制)		助産師外来(9時~16時) (完全予約制)	助産師外来(14時~16時) (完全予約制)	
眼科	午前	佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)		佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)	佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)	佐々木 満(予約制) 高橋 峰光(予約制)
耳鼻咽喉科	午前	吉田 晴郎(再来) 前田耕太郎(新患)	吉田 晴郎(新患) 前田耕太郎(再来)		吉田 晴郎(新患) 前田耕太郎(再来)	吉田 晴郎(再来) 前田耕太郎(新患)
	午後			吉田 晴郎・前田耕太郎 (診察13:00~16:00)		
放射線科	午前	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏
	午後	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏・山崎 拓也	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二・福井健一郎 福田 雅敏
麻酔科 ペインクリニック	午前	香月 亮 石川亜佐子	香月 亮 石川亜佐子			香月 亮 石川亜佐子
救急科 (8:30~17:15)	午前	藤原 紳祐 山住 和之	藤原 紳祐 山住 和之	藤原 紳祐 山住 和之	藤原 紳祐 山住 和之	藤原 紳祐 山住 和之

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようにお願い致します。
(当院の受付時間は午前8時30分~午前11時00分迄です。)

※ 内科系 第2・第4木曜日はベースメーカー外来を行っています。

毎週木曜日の午後(13時~14時)は禁煙外来(保健診療外)を行っています。(受付時間14時~16時) ★予約制

毎週月・金曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付時間14時~16時)

毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) ■第1・3水曜日の午後は循環器外来(受付13時~16時) ★予約制

小児科 每月第3木曜日の午後は内分沁外来(受付13時~16時まで)

毎月第4木曜日の午後は小児アレルギー外来(受付14時~17時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付時間13時~16時) ★予約制

外科 每週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間13時半~15時)

整形外科 ご紹介は整形外来宛でお願いします。

致急患者については救急室にて対応しております。

泌尿器科 每週火・木曜日の午後は検査予約外来を行っています。

産婦人科 每週月・木曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間13時30分~15時30分)

耳鼻咽喉科 每週水曜日午後は一般外来を受け付けています。(受付時間13時~16時)

毎月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。

麻酔科 ご紹介は月曜日でお願いします。救急の場合にはこの限りではありません。

歯科 入院患者さんで歯科診療の必要が生じた時は町内歯科診療所へ往診の依頼を行って下さい。

2012.10.1

底冷えする日が続いている新年、巳年、干支の特徴としては「探究心と情熱」だそうです。今年は新病院建設に向けての動きが加速する年になります。職員一人人が「探究心と情熱」を持って大きな目標に向かって歩みを進める、そんな年になりますように・・・

January、ローマの「Janus (ヤヌス)」という神に由来するこの神は、全てのものの「始めと終わり」を司っていた神だそうです。年の始め、大きな目標へ踏み出す始まりの月・・・

健康に留意し、皆で力を合わせ、「探究心と情熱」を持って今年も頑張りましょう。